

# P15 文化資源としての考古資料 —東京大学における考古資料の教育活用の実践—

東京大学追分国際宿舎地点で行った遺跡の公開と活用

原 祐一(東京大学埋蔵文化財調査室)

文化財保護法、第1章に「この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする」とある。この理念に基づき、筆者は1999年度の浅野地区工学部風洞実験室地点から遺跡の公開を行ってきた。考古資料は「文化資源」と位置付けることができるが、考古資料を「文化資源」とするには、考古資料の研究を背景にした上で、公開、活用を行わなければならない。研究者の頭の中に考古資料の価値を眠らせておいては「文化資源」とはならないし何のための研究かわからない。今後も考古資料を「文化資源」としてどう活用するかについて、他の学問分野の協力を得るなど新たな試みを行っていきたい。考古学は地域に根差した学問で、地元への調査研究の還元、地域住民との交流は旧石器問題で信頼を失った考古学の信頼回復へつながっていくはずである。

## 発掘調査の公開方法

- a. 発掘調査の告知  
掲示板の設置  
向丘町会、文京区教育委員会、文京ふるさと歴史館へ協力依頼
- b. 遺跡調査の公開  
遺跡調査の常時公開  
発掘調査速報の掲示  
発掘工区調査終了時、調査速報刊行(A~C区)町会に配布  
都立向ヶ丘高校日本史選択授業  
学習院大学岩淵令治氏ゼミ遺跡見学会(2008.2.23)  
東京大学追分寮OBへ連絡  
東京ケーブルネットワーク、テレビ朝日取材協力
- c. 遺跡見学会2008年2月1・2日開催  
新聞掲載(東京大学新聞、東京新聞、朝日新聞)
- d. 調査後  
地域雑誌『谷根千』記事掲載  
東京大学学内広報調査記事掲載  
中間報告書刊行、町会に配布  
剪定鋏の保存修復(現在、処理中)  
国際宿舎に研究成果、遺物の展示(予定)  
本報告書作成作業
- e. インターネット  
谷根千ウロウロ  
<http://yanesen-urouro.bakyung.com/>  
歴史に好奇心! さわらび通信  
<http://homepage1.nifty.com/sawarabi/>  
東京大学埋蔵文化財調査室ホームページ  
<http://www.aru.u-tokio.ac.jp>



植木屋関連遺物 剪定鋏 写真提供:武蔵野文化財修復研究所  
ごみ穴にたかったオカチョウジガイ



遺跡掲示板



発掘調査の公開 2008年2月1・2日



灯明皿の点灯実験



都立向丘高校授業 2008年1月17日、2月21日

